

眼で見る世界の森林 (10)



エチオピア北部高地ユーフォルビア (*Euphorbia abyssinica*) の森

東アフリカ、エチオピア北端のティグライ州は、首都アジスアベバから約500 km北上した高地山地帯である。州の中心地メケレ（海拔約2,200 m）から南下すると海拔3,000 mを超える山間にエンバ・アラジェ郡があり、ティグライの人々がコムギ栽培や牧畜を営み生活している。

エチオピアの海拔に応じた農業気象区分（Kebede Tadesse, 2012）によれば、エンバ・アラジェ郡は Weyna-Dega (1,500~2,300 m) ないし Dega (2,300~3,200 m) という高地に分類される。また、年間平均気温（最高）24.3℃、年平均降水量約700 mm（WMO, 2012）という気象条件から、同緯度熱帯地域の植物は少ない。

この地域の植生は、「乾燥常緑山地林及び緑地混合植生」と称され、低地には主に草原が広がり、山地中腹にはリュウゼツラン、アロエ類、トウダイグサ類およびウチワサボテンなどの多肉植物が優占する。また、海拔2,800 mあたりから複数のアカシア類 (*Acacia* spp.) およびビャクシン属 (*Juniperus*



sp.) の天然植生に変化していく様子を見ることができる。

写真は、エンバ・アラジェ郡の農地間に残された木性トウダイグサ (*Euphorbia abyssinica*) の群落である。一見柱状サボテンと見間違いが、トウダイグサ類の特徴である乳状樹液が分泌されることで区別できる。本種

は過去には燃料、箱材等の木工材料として伐採利用されたが、現在では農地の境界を明示するための生垣として利用され続けている。増殖は、木質化の進んでいない部分を挿木することにより容易に行うことができる。同地域で本植生がまとまった群落として見られることは現在まれであるが、単木が周辺農地に散在している。

エチオピア高地には他にも希少な種が報告され、その有用性などから絶滅危惧種等として木本植物23種がリストアップされている（IUCN/F&FI, 2005）。高地の森林植生は壊れやすく、現存樹木の保全に注力していく必要が感じられる。

竹中浩一（国際農林水産業研究センター）

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は前号30頁を参照ください。